「約束の地」の名産品

『旧約』創世記４３章１１はこう記しています。
「すると、父イスラエルは息子たちに言った。『どうしてもそうしなければならないのなら、こうしなさい。この土地の名産の品を袋に入れて、その人への贈り物として持っていくのだ。乳香と蜜を少し、樹脂と没薬、ピスタチオやアーモンドの実。それから銀を２倍用意して行きなさい。』」

これはヤコブ（イスラエル）と息子たちイスラエル族がエジプトに移住する経緯の場面です。飢饉でエジプトに行っていたヤコブの息子たちはそうとは知らず弟ヨセフと再会していました。その兄たちが、再びエジプトに向かいヨセフへの手土産を持っていくのに、ヤコブ（イスラエル）が息子たちにアドバイスを与えているのです。「この土地の名産の品」とありますが、この土地とは聖書ではカナンとされる「約束の地」です。その名産に乳香と没薬が挙げられています。「ピスタチオやアーモンドの実」は比較的栽培は容易でパレスチナでもアシール地方でも採取できるようになっていたでしょう。しかし乳香と没薬はパレスチナでは採取されないはずなのです。 特に没薬は取れません。少なくとも名産品などにはなりません。ウィキペディア記事ではそれぞれ以下のようにあります。

乳香（にゅうこう）とはムクロジ目カンラン科ボスウェリア属の樹木から分泌される樹脂のこと。乳香の名は、その乳白色の色に由来する。
古くからこの樹脂の塊を焚いて香とし、または香水などに使用する香料の原料として利用されている。 香以外にも中医薬・漢方薬としても用いられ、鎮痛、止血、筋肉の攣縮攣急の緩和といった効能があるとされる。ボスウェリア属の樹木は、オマーン、イエメンなどのアラビア半島南部、ソマリア、エチオピア、ケニア、エジプトなどの東アフリカ、インドに自生している。 これらの樹皮に傷をつけると樹脂が分泌され、空気に触れて固化する。1-2 週間かけて乳白色〜橙色の涙滴状の塊となったものを採集する。樹脂の性質は樹木の種類や産地によって大きく異なる。樹木は栽培して増やすことが困難で、これらの自生地の特産品となり、かつては同じ重さの金と取引されたこともある。現在も良質とされるものの商業的な生産は主にオマーンで行なわれている。

オリバナム（中世ラテン語: olibanum ; オリバヌム）の語源ともされるアラビア語 اللبان （al-lubbān）「乳香」 は、「ミルク」を意味する語 لبن （laban）からの派生語。

没薬（もつやく）とは、ムクロジ目カンラン科コンミフォラ属(ミルラノキ属)（英語版）の各種樹木から分泌される、赤褐色の植物性ゴム樹脂のことである。外国語の転写から**ミルラ**(あるいはミル、Myrrh)とも呼ばれる

没薬樹はスーダン、ソマリア、南アフリカ、紅海沿岸の乾燥した高地に自生する。 起源についてはアフリカであることは確実であるとされる
古くから香として焚いて使用されていた記録が残されている。 また殺菌作用を持つことが知られており、鎮静薬、鎮痛薬としても使用されていた。 古代エジプトにおいて日没の際に焚かれていた香であるキフィの調合には没薬が使用されていたと考えられている。 またミイラ作りに遺体の防腐処理のために使用されていた。 ミイラの語源はミルラから来ているという説がある。

以上、「同じ重さの金と取引された」乳香と没薬は、アラビア半島南部で紅海の沿岸にあるアシール地方が「名産品」となるのです。